

新型コロナウイルス感染症予防接種を受ける前に必ず読みましょう。

新型コロナウイルス感染症とは？

新型コロナウイルスに感染することによって起こります。感染者の口や鼻から、咳、くしゃみ、会話等のときに排出される、ウイルスを含む飛沫又はエアロゾルと呼ばれる更に小さな水分を含んだ状態の粒子を吸入するか、感染者の目や鼻、口に直接的に接触することにより感染します。エアロゾルは空気中にとどまりうることから、長時間滞在しがちな、換気が不十分であったり、混雑した室内では、感染が拡大するリスクがあることが知られています。

また、ウイルスが付いたものに触った後、手を洗わずに、目や鼻、口を触ることにより感染することもあります。WHOは、新型コロナウイルスは、プラスチックの表面では最大72時間、ボール紙では最大24時間生存するなどとしています。

新型コロナウイルス感染症の感染対策は？

高齢者や基礎疾患のある方が感染した場合は、重症化する恐れがあります。感染対策として「手洗い（手指消毒）」や「換気」、「マスクの着用を含めた咳エチケット」等が効果的です。

新型コロナウイルス感染症予防接種の有効性は？

新型コロナワクチンについては、有効性や安全性が確認された上で薬事承認されており、さらに、国内外で実施された研究などにより、新型コロナウイルス感染症にかかった場合の入院や死亡等の重症化等を予防する重症化予防効果が認められたと報告されています。

新型コロナウイルス感染症予防接種の副反応は？

新型コロナワクチン接種後、体内で新型コロナウイルスに対する免疫ができる過程で、様々な症状（注射した部分の痛み、発熱、倦怠感、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢等）が現れることがあります。こうした症状の大部分は、接種の翌日をピークに発現することが多いですが、数日以内に回復していきます。

予防接種を受ける前の確認は？

この新型コロナウイルス感染症予防接種説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師、市町の担当課に質問しましょう。十分に納得できない場合には、接種を受けないでください。

予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。基本的には接種を受けるご本人が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。また、現在治療中の病気がある方は事前にその病気の主治医に新型コロナウイルス感染症予防接種を受けてよいか必ず確認してください。

法律に基づく新型コロナウイルス感染症予防接種はあくまでも、ご本人の意思に基づいて接種を受けるものなので、インフォームドコンセント（説明と同意）がない場合には、医師は接種を行いません。接種を希望する場合もしない場合も、十分に医師から説明を聞き、理解をした上で予診票の新型コロナウイルス感染症予防接種希望書に自署して接種してください。

なお、医師が必要と認めた場合には、他のワクチンと同時接種ができます。実施については、担当の医師にご相談ください。

予防接種を受けることができない人は？

①接種当日、明らかに発熱のある人

一般的に、体温が37.5℃を超える場合を指します。

②重篤な急性疾患にかかっている人

急性の病気で薬を飲む必要があるような人は、その後の病気の変化が分からなくなる可能性もあるので、その日は見合わせるのが原則です。

裏面も必ずお読みください。

③予防接種の接種液の成分によって、アナフィラキシーショックを呈したことが明らかな人

「アナフィラキシーショック」とは通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

④その他、医師が予防接種を行うことが不適当な状態と判断された人

上の①～③に入らなくても医師が接種不適当と判断した時は接種できません。

予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない人は？

- ① 心臓病、じん臓又は呼吸器の機能に自己の身の周りの日常生活が極度に制限されている程度の障害を有する人
- ② ヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する人

予防接種を受けた後の注意事項は？

- ① 予防接種を受けた後**30分間**は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。
- ② 入浴は差し支えありませんが（接種後1時間を経過すれば可能）、**注射した部位を強くこすることはやめましょう。**
- ③ 接種当日はいつもどおりの生活をしてかまいませんが、ワクチン接種後**24時間**は激しい運動や多量の飲酒は避けましょう。
- ④ 抗凝固療法を受けている人、血小板減少症または凝固障害のある人は、接種後の出血に注意し、強めに長く圧迫しましょう。

予防接種を受けない場合は？

接種医の説明を十分聞いた上で、ご本人が接種を希望しない場合、家族やかかりつけ医の協力を得てもご本人の意思の確認ができなかったため接種をしなかった場合、当日の身体状況等により接種をしなかった場合等においては、その後、新型コロナウイルス感染症に罹患、あるいは罹患したことによる重症化、死亡が発生しても、担当した医師にその責任を求めることはできません。

副反応が起こった場合は？

予防接種後、身体に何らかの異常が発生した際は、医師（医療機関）の診療を受けてください。意識障害、呼吸困難等の重篤な症状の場合は、119番へお掛けください。

健康被害の救済制度は？

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害年金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

ご不明な点はお住まいの市町の予防接種担当までお問合せください。